



発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料 1部80円
(会員の購読料は会費を含む)

2024
No.627
11月号

— 芸術 —

如何ならむ 教といへど芸術を

外に天国造り得べしや

芸術を 楽しむ心裕かなる

人こそ天国に住すればなり

山河草木 こよなき眺めは人の目を

楽しませます神の芸術



庭木の手入れをされる明主様 (右、下とも)

昭和二十八年十月八日
渡辺義雄氏撮影

◎教団方針

信徒よ速やかに目覚めよ、
それは光を受け、邪を捨て、光を授け、
正に生きる事である

神言霊

あらゆる物にはやはり動物と同じ理性と感情と、それから芸術的思想もあるのです。ただ動物以外の物には自由がないのです。草木がこうしようあしようとしても、ある程度はありますが、動物ほど自由がないのです。それが一番わかることは、私は花が好きで、始終花を扱いますが、ちよつと気に入らない点がありまして、忙しくてそのままにしておく、明るくなる日になるとその格好が悪かった所が直っているのです。それは実に微妙なものです。それから私はよく、木をその周囲の状況から、植木屋に逆に植えさせることがあります。これは前に書いたことがあります。裏返しとか横にするのです。そうでないと具合が悪いのです。そうすると、だんだん年限がたつに従って、前面ができてくるのです。そういうような具合で、人間が見ると、目に見えるほうは格好が良くなるのです。私は始終生きていると言いますが、まったく生きています。だからそういうような物を愛し、優遇し、尊ぶのです。そうすると、そういう物も非常に嬉しくなると、「よしウンと見端を良くしてやろう」という感情が起るのです。それは実にたしかなのです。だからしてそれを作る土もやっぱり同じです。土に対して、大いに尊重し、土を愛せば、土も喜びますから、土が大いに働くわけです。人間でも、始終酷い目に遭ったり、虐待されたり、ロクな扱いをされなかったら、不平でロクな仕事はしないことになります。それと同じように、そこに

◎方針のみちしるべ

- (一) みつめなおそう明主様の心
- (二) つらぬきとおそう明主様の心
- (三) 教団綱領を尊び実践する
- (四) 信仰継承は家族と家庭円満から

妙な点が大いにあるのです。 (昭和二十九年一月十五日)

〈お伺い〉

森羅万象すべてに霊があり、人間や動物は死後霊界に行き浄化を経てまた再生することですが、植物は枯死後どうなりましようか。

【神言霊】

人間や動物は精霊ですが、植物は、石だとか土だとかいった無機物質と動物との中間で、要するに半精霊なんです。だから、植物は枯ればそれでおしまいですよ。

植物でも人間の言葉が判るんですね。私は以前植木屋から教わったんですが、なかなか花の咲かない木がある場合、それに向って「今年咲かないと切ってしまうぞ」と言っていると咲くって教えてくれたことがあるんですよ。それは以前私の家の庭にどうしても花の咲かない木があったんでね、植木屋に「どうしたもんだらう」と聞いていたら「言い聞かしたらいいでしょう」と言われて言ってもんだから、その通りにやってみたら、なるほど咲きましたね。(笑声)。これなんか人語を解するんですね。 (昭和二十五年四月二十三日)



秋季大祭・秋のみたままつり執り行われる

令和六年九月二十二日、秋の彼岸のお中日にあたるこの日、秋季大祭・秋のみたままつり併せて敬老長寿祈願、九月

感謝祭が東京本部からの中継配信により各布教拠点とも一斉に執り行われた。この日は奇しくも光守様

のお出ましを賜り、本部礼拝堂に光守様が定位置にお付きなられると自然と拍手が沸き起り信徒一同お出ましの喜びをかみしめているように感じた。祭典は定刻を迎え開幕となり、大光明・明主様への感謝と祈り、敬老長寿祈願の祭典とともに、厳肅かつ懇ろなる祖霊供養の祭典が滞りなく執り行われた。また、この日は地方教会からも多数の参拝者があり祭典を前後して笑顔の絶えない信徒同志の交流が数多く見られた。さらに、祭典後には東京教会主催による納涼会が催され、信徒の奉仕による手作り料理などを囲みながらの楽しくにぎやかな懇親会が行われた。



多くの参拝者で埋め尽くされた東京本部礼拝堂



厳肅かつ懇ろなる祖霊供養の祭典をむかえた秋の大御祭典の御神前



献花を受け取る板垣伴美参拝者代表



山田友子教師と窪田信子参拝者代表による玉串奉奠



会長の挨拶

本日のおみたままつり大御祭典を光守様お出ましのもと、皆様とともに執り行う事が出来ました事、大光明・明主様に感謝申し上げます。また、地方教会からのご参拝もあり、多くの方とともに祭典をお迎えできたことは、明主様はもちろんのこと、祖霊様方も非常にお喜びのことではないかと思えます。さて、本日の祭典は「秋季大祭」として大光明・明主様への感謝と祈り、願いをお捧げするとともに、秋のお彼岸の祖霊様の御供養をさせていただき「秋のみたままつり」に加えて敬老長寿祈願、九月感謝祭を併せて執り行わせていただきました。

本日の神歌では、本歌の他に四首の御詠を賜りました。最初

祭典をはじめ日々の参拝で賜る神歌の意味をかみしめて日々の生活の糧にさせていただきたいと思えます。

の二首は秋季大祭に関わる御詠です。一首目の「日の神」とは主神を表します。すべては神より与えられるものでありその恵みに感謝を捧げる人々が集えば集うほど御光は大きく、私達に降り注ぎます。また、明主様を信じて身をゆだねる事ができれば幸福な天国的な生活へと導かれていきます。

三首目は敬老長寿祈願に関する御詠です。私たちは生まれた時から時間の経過とともに歳を重ねて老いていきます。一つの種から芽が出て、やがて花を咲かせ実を結ぶ。歳を重ねていかなければ一人の人間として実を結ぶことはできません。さらに、その過程において神の恩恵をうけながら生かされています。人としての務めを果たしていくことで神様からの恵みに対するお礼、お返しができるのではないのでしょうか。これが感謝報恩です。四首目は、感謝祭に関わる御詠です。「額づく」とは、ひたいを地面や床につけるほど丁寧にお辞儀や拝礼をするという意味です。大光明・明主様の御前で深々と頭を下げて感謝と祈り、願いを捧げる行いは、やはり、神を敬いすべてをゆだねるというものであり、この喜びというものは、何にも代えがたい宝物ではないかと思えます。祖霊慰慶神歌は三首賜りました。一首目では神仏を拜むことは真理であり、とても大切なことであることを教えておられます。二首目では人の魂というのは永遠であり現世と霊界での修行や修養を積んで成長し、神の理想とする地上天国を建設する役割を担い、そこに住むことのできる資格を得られるのではないかと考えます。三首目は身近に亡くなられた方がおりますと寂しさもひとしおだと思えます。しかし、祖霊様も霊界で修行を積まれながらも子孫を見ておられるのではないかと思えます。従いまして、祖霊様とのふれあいはこのような場であり、日常であればお墓参りや仏壇などへの参拝を通しての行いが大切になってきます。

会長挨拶(要旨)

感謝奉告

旧知の友が転倒して腰を痛める。想念浄霊を続ける中、本人からの旅行の誘いに驚きと喜び。

山崎 淑子

〔浜松教会〕

私には、沼津に古くからお付き合いさせて頂いている友人がいます。電話やラインで連絡を取り合い最近では二、三年に一度お会いしています。

一昨年の五月頃、電話をかけた際、「転んで腰を痛めて動きが思うようにならない。」との事。私は、朝五時頃より想念浄霊を十名程の方にお取次ぎさせて頂いておられますので、その友人も加えさせて頂きました。この事は本人にはお話ししておりませんでした。一カ月程過ぎた頃にラインが入り、「ご招待しますから箱根に、一緒に旅行に行きませんか？」とお誘いを受けました。「えっ？うそ。」と、いきなりの誘いに驚きました。この御用が神様に通じ、腰がだいぶ良くなってきた事と確信し、快く、是非と返信し、令和五年の六月に箱根へ一泊旅行に行かせて頂きました。その間、一緒に

したので移動中やホテルの部屋の中では浄霊のお取次ぎをさせて頂きました。すると、翌朝の浄霊のお取次ぎの時に痰がとめどなく、ひっきりなしにたくさん出ました。私はその友人に「体の中の悪い物が溶けて痰となって出たので大丈夫、心配しないでね」と伝えました。腰の痛みも和らぎ、大涌谷や箱根美術館などを見学させて頂きました。箱根美術館では明主様のお部屋などを見学させて頂き、手を合わせて御守護の御礼、世界平和を願い、お参りをさせて頂きました。友人からは神様におあげしてと、お気持ちをお預かりしましたので感謝献金として教会へお捧げさせて頂きました。今年の四月に沼津へ行かせていただいた際、友人は杖をついておりましたが、元気でしたので、安心して、うれしくなりました。その後も想念浄霊のお取次ぎを毎日とはいきませんが続けさせて頂いております。

大光明様・明主様御守護を賜りありがとうございます。光守様、いつも温かくお見守り頂きありがとうございます。

防潮堤植樹にボランティアで参加 その後の見学と霊界お浄めの報告

二〇一六年の春と秋に行われた、浜松市主催の遠州灘沿岸域防潮堤にクロマツ・広葉樹、他の植樹のボランティア活動に教会として参加させて頂きました。その後、二〇二四年の五月十九日の感謝祭終了後に、その後の樹々の成長を十名で見学に行きました。大きな樹は三メートル程、小さなものは一メートル程、小さなものは一メートル程、小さないものと其々でしたが、元気に育っていてくれて、安心いたしました。この日は小雨が降っておりましたが海岸は穏やかで、サーファーズの皆さんが楽しまれていたようです。



遠州灘に向かって霊界お浄めをされる信徒の皆さん



植樹されて8年を経た樹々



納涼会 会場の様子

納涼会開催される 信徒同士の懇親を深め、さらなる教会の充実を目指そう

令和六年九月二十二日の秋季大祭・秋のみたままつりの祭典終了後に「納涼会」が行われました。今年はまだ暑さが続いていた事から「納涼会」の名称で開催することとし、東京教会の光導実践委員が中心となつて数か月前から準備が行われました。当日は一階ロビーを会場として朝から机などのセッティングが行われ、料理は東京教会側と信徒側とで、準備をすすめ、教会で調理したり自宅から持ち寄りたりと品数豊富でしたが、先ずはそれらの料理を祭典にお供えする御膳部に少しづつ盛り付けて祖霊様に召し上がって頂きました。



手作り料理を囲みながらのにぎやかな交流が行われました



清水信徒総代による挨拶と一本締め

トピックス1

浜松教会より

トピックス2

東京教会より

金粒米について

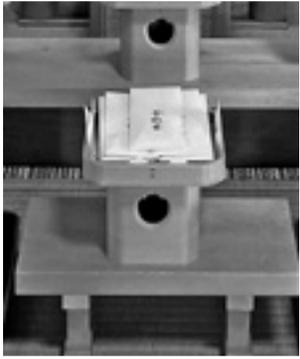
【御逸話】

昭和十年二月一日、教祖明主様のお弟子の方が、夢を見ました。その夢というのは、御三方に白米を盛って、大黒天にお供えしたところ、その白米が全部金色に輝いて見えました。あまりの不思議さに、夢で見たのと同じように大黒天にお供えし、その白米を明主様に献上なされて、夢のお話を申し上げました。

明主様は『それは神夢というものであり、大変めでたいことである。』と仰せられ、その白米を御嘉納遊ばされました。そして、そのお徳を一般信者に分けようとのありがたい御心で、大黒天に、新白米をお供えし、その白米を『金粒米』とお名づけになり、お下げを賜りました。

私たちは、このめでたい『金粒米』の嘉例にならつて、明主様のお許しを頂き、みろく大黒天神様に無施肥無農薬米を捧げ、みろく大黒天神様の御徳、明主様の慈悲の御心を光守様が頂かれ、そして私たち信徒一人ひとりがその御心を頂いていつまでも福寿にあやかれるようにとの祈りを頂き、「火水土の恵み感謝祭」の佳日にお下げ渡しを頂いております。

感謝と喜びのうちに、日々を行じてまいりたいと存じます。



岡田茂吉師の自然農法

教団圃場 (伊那水田) 収穫作業報告

伊那水田の稲は八月までに立派に生長し、稲穂も無事に揃いました。そして九月に入ると文字通りすつかり「頭を垂れた」稲となり収穫期を迎えました。収穫作業となる稲刈りは、九月二十八日、二十九日の二日間で行いました。作業は人手が必要なため、奉仕者を募ったところ東京教会と伊那教会より八名、そのほかに東京教会信徒と親交のある二十代〜三十代の若手の未信徒三名の方の参加により、ここ数年では最多の十一名となりました。

一日目の作業は本部自然農法担当者が水田内に稲を干すハザを作るなど稲刈りにむけた準備を行いました。二日目の稲刈り当日の天気は曇りで、雨は降らず、日差しも少なく涼しめで、風もあったため、絶好の作業日和になりました。無事に参加者全員が水田に集まったところで全体の作業の流れを説明し、最初に稲刈り機の刈り残しと旋回をしやすくする為に、稲刈り用の鎌を手に取り、手刈り体験も兼ねて水田四隅の稲刈りを行いました。その後は、機械で刈り取った稲束を拾い集め、ハザに掛けて天日干しをする作業を行っていきました。ハザかけはある程度の技術と体力が必要ですが、未信徒の若手の皆さんは体力があり覚えるのも早く、しばらくすると完璧に作業をされていました。更にはごく自然に信徒さんとも打ち解けて楽しそうに会話をされるなど、とても和気あいあいとした雰囲気の中で作業は順調に進みました。昼休憩

の昼食は現地でみなさんで頂きましたが、伊那教会信徒の皆さんが用意してくれた手作り弁当やおにぎりを食べて全員が「とても美味しい！」と絶賛されていました。心のこもった昼食のお陰ですっかりパワーも付き、午後の作業にも励むことが出来、午後三時には三枚全ての水田で稲刈り、ハザかけ、雨よけのシート張りまで、予定していた作業が全て完了しました。全員でその達成感を分かち合いながら集合写真を撮り、それぞれの帰路につかれました。この度の稲刈りも大変な作業でしたが、皆さんから「楽しかった！」という声が聞かれてとても嬉しく思いました。



刈取った稲をハザにかける様子

鎌による稲刈り作業の様子



収穫作業を終えて皆さん満面の笑み！



伊那の自然に囲まれて手作り弁当に舌鼓

十二月本部祭典のご案内

- ◎慰霊祭 令和六年十二月十日 (火) 十時
 - ◎御聖誕祭 令和六年十二月二十三日 (月) 十時
 - ◎感謝納めの参拝 令和六年十二月三十一日 (火) 十時
 - ◎哀悼慰霊祭 令和六年十二月三十一日 (火) 感謝納めの参拝に続き
- ※各布教拠点における祭典日は所属教会までお問い合わせください。